

第28回 地図構造化TFにおける

「ダイナミックマップの共通プラットフォーム化に向けた調査検討」

「ダイナミックマップのサービスプラットフォームに係る調査」

受託者説明についての議論要旨

議事要旨	○「ダイナミックマップの共通プラットフォーム化に向けた調査検討」の委託案件では、ダイナミックマップ共通プラットフォーム化検討コンソーシアム(4社連合)が受託した。本会議では、コンソーシアムから今年度受託の業務予定と内容について、説明・報告し、質疑応答を行った。 ○「ダイナミックマップのサービスプラットフォームに必要な調査及び検討」の委託案件では、富士通株式会社が受託した。本会議では、同社から今年度受託の業務予定と内容について、説明・報告し、質疑応答を行った。
TFでの主な議論	(1)ダイナミックマップの共通プラットフォーム化に向けた調査検討 Q1: 自動走行用に整備される3次元地図共通基盤データが、インフラ維持管理や防災減災で利活用されるイメージが見えにくい。 A1: トンネル等、既に活用が進んでいる場面もあり、活用可能性は見出せると考えている。 Q2: 自動走行用では、道路中心になると考えられる。防災減災というシーンでは、道路以外にも幅広く検討する必要があると考えられる。 A2: 道路の果たす役割は、非常に大きなものである。今回、まずは道路を中心に検討することで、防災減災に必要な情報を整理できると考える。 C2: 道路以外も含んだ面での3次元地図については、SIP防災・減災、インフラ維持管理の方で検討している。この事業では、自動走行用3次元地図共通基盤データの有効利用を図ることで、地図のコストが下がることを期待している。 Q3: 別施策である「ダイナミックマップのサービスプラットフォーム」との違いは？ A3: サービスプラットフォームは、他から利用するための検討であり、共通プラットフォーム化は、使うための準備である。 (2)ダイナミックマップのサービスプラットフォームに係る調査 Q4: どういった事業モデルになるのか。 A4: 事業モデルも含めて本委託の中で検討していく。現時点では、データをユーザに売る形だけでなく、自動走行地図を多様なユーザに提供する形や、データの組み合わせによる付加価値に対してユーザが支払うという形も想定している。サービスプラットフォームでは、一箇所にデータを集めるのではなく、データをどのように繋ぐかを検討する。 Q5: 海外調査のイメージは既に持っているか。 A5: 調査対象としては、独HERE社や米Google社などが念頭にある。ビジネスモデルの調査のみならず、今後の連携を見据えて互換性も含めて検討したい。 Q6: 成果物のイメージは？ A6: 今年度はサービスプラットフォームの要求事項と来年度に向けての課題を整理する。